

序 説

日常の臨床では多くの場合、なんらかの疾病を有する、あるいは疑われている患者に対する診療として画像検査を行い、読影・診断が行われる。一方、特に疾病を疑われていない対象者に対する健康診断としての画像診断も広く行われている。このような健康診断目的の画像診断には、いわゆる「住民検診」として行われる対策型検診から「人間ドック」のような任意型検診まで、さまざまな行われ方がある(この点の詳細は「乳がん検診」「肺がん検診」の項に詳しく述べられている)が、その読影に関しては、検診を専門に行っている先生のみならず、日常臨床の片手間で、あるいは兼業としてなど、必ずしも専門ではない～得意でない領域を担当している先生も少なくないと思われる。そのような先生方の読影の一助となるよう、今回「人間ドック(検診)の画像診断」という特集を企画した。

健康診断の画像診断は非常に幅広く、限られたページ数で網羅することは困難であるが、今回は特に悪性腫瘍を対象とした検診のなかから項目を選定した。人間ドックとしての任意型検診が中心となる項目が多いが、項目によっては対策型検診との相違なども含めてご執筆をお願いした。

乳がん検診については山梨PET画像診断クリニックの佐藤葉子先生、肺がん検診については浅間南麓こもろ医療センター 放射線科の丸山雄一郎先生、膵がん検診については金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 放射線科学の小坂一斗先生ほか、PET/CT検診については厚地記念クリニック・画像診断センターの陣之内正史先生と、各領域の第一人者の先生方にご執筆いただいた。非常にまともにくい内容にもかかわらず、わかりやすくご執筆いただいた先生方に改めて深謝申し上げる。

改めて全体を拝読させていただくと、基本的な内容から最先端のトピックスまで取り上げていただいております。新たに検診の読影を始める先生だけでなく、日ごろから検診の読影を続けている先生方にも必ず役立つ内容となったと思われる。まず一通りお読みいただき、読影の際にも折りに触れ読み返していただければ幸いです。

石守崇好